

第3回 海岸勉強会メモ

日時:平成20年2月13日(水)

19:00~21:00

会場:住吉公民館

(1) 木材素材を用いた砂浜復元工法について

木材素材を用いた砂浜復元工法について、開発者である安藝國宏氏より紹介頂いた。

紹介内容と基本的事項の質疑応答の要旨は以下のとおり。

(※なお、開発者のお話を伺うことが主旨であることから、本工法の紹介内容及び質疑応答について行政側からコメントはしていない。)

- ◇ 宮崎県富田海岸（新富町）、長浜海岸（延岡市）において装置を設置し、装置周辺に砂嘴が形成されたこと、設置から3ヶ月で2.5mの堆積高となった事例がある（長浜海岸）。
- ◇ 装置一つの大きさは長さ（岸沖方向）5m、幅（汀線に平行な方向）3m、杭が2～5mで、これを汀線に平行に3連おいたものを一組とする。これを50m間隔で設置。1kiにつき一つの砂嘴ができる。
- ◇ 装置の設置場所は、干潮時と満潮時の汀線の間付近。コンクリートの護岸など構造物がある場合は、なるべく離して設置した方がよい。また、ダシ（離岸流）があるような箇所（区間）ははずすべきである。
- ◇ 効果があるのは、砂浜侵食箇所、河川からの土砂供給が十分あること。なお、海岸への砂の供給はあると考えている。
- ◇ 装置の耐久性は、潮に浸かれば半永久的。1年以内に潜らせる（潮に浸かる）とよい。
- ◇ 延岡長浜海岸の装置は平成18年の竜巻時、装置は無事であった。砂は竜巻で飛ばされたが、やがて戻ってきた。
- ◇ 住吉海岸での本装置の適用性については、砂浜があれば大丈夫と考える。
- ◇ 砂浜復元の姿は、砂の堆積、前浜の静穏化（波打ち際を静かにすること）、植生の自生、保安林の保全、アカウミガメの産卵地の保全、である。

(2) 地元の危機感について

地元の危機感について、勉強会に参加された海岸付近にお住まいの方々からお話を伺うとともに、質疑応答がなされた。

(※なお、地元の方々のお話を伺うことが主旨であることから、本内容について行政側からコメントはしていない。)

- ◇ 一ツ葉有料道路駐車場にあるレストラン前の護岸は、砂を踏み崩すという理由でできた。
- ◇ 松林（保安林）まで海水が入ってくる。
- ◇ 台風の度に、波が有料道路を越してくるなど、気が気でない。一刻も早い対策が必要である。
- ◇ 新名爪地区では、台風の時、小さい頃には聞こえなかった海岸の波の音が今は聞こえる。トタンの腐食もある。
- ◇ 台風の度に、家に潮が吹く。台風も大きくなってきている。

- ◇ 石崎川近くでは、台風の時、小さな津波のように水が遡ってくる。
- ◇ 石崎川の河口は昔蛇行していたので、直接海水が川へ逆流することはなかった。
- ◇ 高潮、津波が怖い。
- ◇ 住吉八幡神社の神輿は、昔はなだらかな海岸におろしてお払いをしてもらっていたが、今は（浜がけができて）絶壁になっているので、崖を降りている（大人の神輿だけで、子供の神輿は降りられない）。
- ◇ 塩害を食い止めてくれる松林は、農作物を始め、地域のくらしを守るためには大切。
- ◇ 同一方向を向いていた松林が、今はバラバラな方向を向いているのがかなり広い範囲で見られるが、地面が陥没しているのが原因だと思う。
- ◇ 侵食のため、貴重な生き物が失われつつある。
- ◇ 地域は、台風や侵食に対する危機感が強いので速やかな対策を望んでいる。
- ◇ どういう工法が確実に早く効果を上げてくれるのか知りたい。
- ◇ レストラン近くの有料道路が陥没した箇所は復旧されているが、いつまたこわれるか分からない状況である、地元としては、対策の進め方が生ぬるいと感じられる。
- ◇ 家に波がかかるなど災害に現時点で脅かされている状況ではないが、地震等災害はいつ来るか分からないので、危機感がある。
- ◇ 港ができてから侵食が始まったと思っている。
- ◇ 客観的に危機感を示すことは（専門家でもない地元のものにとっては）難しいが、そこに暮らしている人たちが感じている主観的に見える現象も、広く取りまとめれば客観的になると考える。

(3) その他

- ・ 第2回勉強会メモは、了承。
- ・ 第4回勉強会は、平成20年3月19日（水） 住吉公民館 19:00～
テーマは「砂の移動に関する話」
- ・ 次回のテーマは、次回の勉強会の際に決める。